

◎主な管理運営方式

①公営(直営)

メリット

- ① 歴史研究や地域文化の研究など学術性、公共性の高い業務の安定性を確保できる。
- ② 資料の寄託に際しては、施設と寄託者との信頼関係の確保ができる。
- ③ 一部委託にした場合、企業等の参加メリット創出に関する企画などに、民間のノウハウを導入しやすい。

課題

- ① 指定管理方式を採用するよりもコストがかかる。
- ② 集客事業の企画力が弱い。
- ③ 現在、学芸員の人材育成ができておらず、通常の人事サイクルの中では、学術性の維持に課題がある。

②民営(指定管理者制度)

メリット

- ① 民間企業の競争原理に基づく運営管理コストの縮減を期待できる。
- ② 運営に関する民間の専門的ノウハウを持ったスタッフ配置が期待できる。

課題

- ① 指定管理者の交代や、学芸員の任期付雇用により、学術性の維持・継続が困難。
- ② 指定管理者の選定は1年前であるため、博物館の開館前の体制構築が困難であり、歴史文化施設の理念や意図が運営に反映されない。
- ③ 公共性が保証されていない。

③民営(PFI)

メリット

- ① 民間事業者の発注により施設が建設されるため、建設コストの削減率が高いことが期待できる。
- ② 民間の専門的ノウハウを持ったスタッフを継続した配置が期待できる。

課題

- ① 手間や時間がかかる。
  - ② 実際に手をあげる可能性が少ない。
- 【検討後、PFI導入を見送った施設事例】
- 三重県博:計画段階にVFMを検討した結果、PFI手法では施設目的を達成しないという判断から導入を見送った。
- 下関市博:比較的早い段階にPFI導入を前提とした事業計画を打ち出したが、市民との合意形成が図れなかったため、導入を見送った。

静岡市歴史文化施設の特徴

管理運営方式を検討するにあたっては、『学習性・地域性を兼ね備えた娯楽性・集客性のあるビジターセンター機能』と『博物館機能』の2つの機能を持つ静岡市歴史文化施設の特徴に留意する必要がある。

集客力の高いビジターセンター機能を持つ。

徳川家康を軸とした展示構成など、深い学術性を持つ。

【上記を踏まえて同施設に相当と考えられる運営形態】

指定管理による運営(民間団体のJVが指定管理を行うパターン)

※同様の運営形態を採用する施設に「江戸東京博物館(東京都)」がある。

